

はすだね通信 第47号

みんなで進めよう
茨城農業改革

土浦地域農業改良普及センター

平成24年7月26日発行

褐斑病と褐紋病に注意しましょう

褐斑病と褐紋病の発生が例年よりも早く拡大しています。梅雨明けはしましたが、一度増えた病原菌は環境が整えば勢いを取り戻すので、今後の発生状況にも注意する必要があります。

発生状況を注意深く観察し、適切な対策を講じて下さい。なお、褐斑病と褐紋病の病斑は非常に類似しているため肉眼での判断は極めて困難ですが、対策はほぼ共通しています。

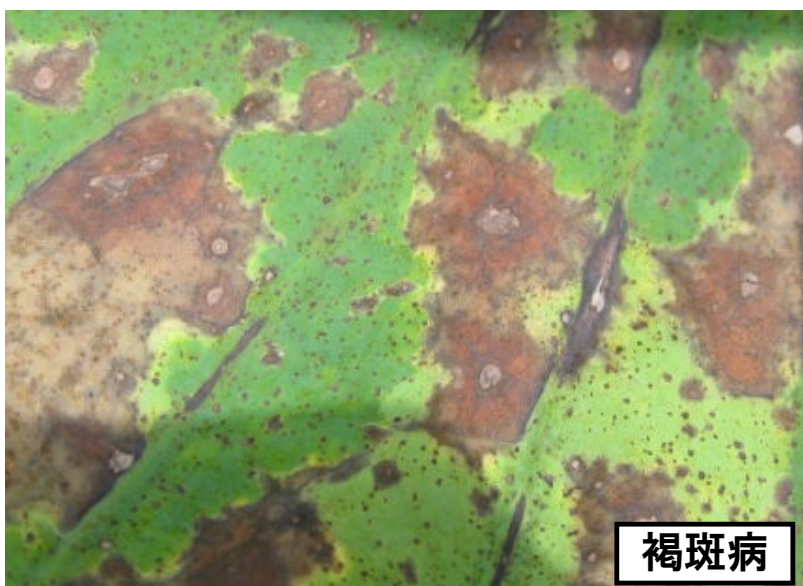
褐斑病(かっぱんびょう)と褐紋病(かつもんびょう)の特徴と対策

特徴

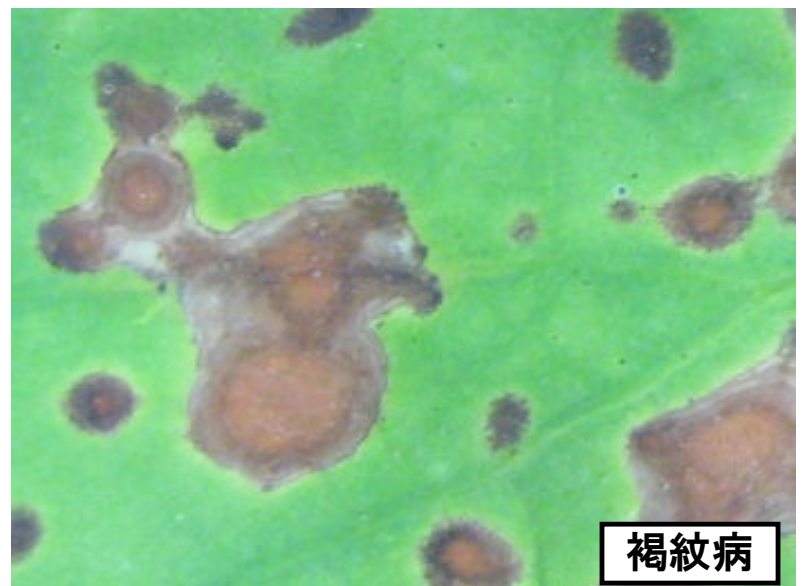
- ・いずれも葉に斑点を生ずる病害。斑点は赤褐色～暗褐色。
- ・褐斑病はコリネスポラ属菌、褐紋病はアルタナリア属菌の糸状菌により発生。
- ・病斑上に形成された胞子が風等で運ばれて感染が拡大(風媒伝染)。
- ・概ね 20～30℃で多湿条件で発生しやすい。特に、褐斑病は 25～28℃が発病適温。
- ・露地栽培では6月中下旬頃から発生しやすい。9月以降に多発することが多い。
- ・肥料切れ等により生育が衰えた場合や、窒素過多や過繁茂により発生が助長されます。

対策

- ・発生が少ないうちは、発病を確認したら、罹病葉を除去して下さい。
- ・褐斑病については、トップジンM粉剤の散布が農薬登録されています。散布する場合は、できるだけ発生が少ないうちに行ってください。
- ・被害残渣は次年度の伝染源となります。できるだけ水中に埋めて下さい。
- ・窒素過多や肥料切れを起こさないよう、適切な肥培管理を行ってください。



褐斑病



褐紋病

農業は正しく安全に使いましょう!!!

土浦市真鍋5-17-26 土浦合同庁舎内 土浦地域農業改良普及センター Tel 029-822-8517 Fax 029-822-7370